保育の現場における SDGsの実践

キーワード　陸の豊かさ・教育・自然・街づくり

○取り組んだきっかけ

近年の子どもたちは室内で遊ぶ時間が増え、自然と関わる機会が減少していると感じています。
そのようななか、次世代の子どもたちのことを考えた街づくりを進める動きがあります。そこで、私たちは地域の子どもたちを対象としたイベントを開催し、地域貢献することにしました。

○活動の目的

掛川市や磐田市において、街づくりを行っている団体と協力し、それぞれの地域の魅力を発信することや子どもたちが自然と関わり、親しみを持って楽しむことができる場の提供を目的として活動を行いました。また、親子の交流の場として行いました。

○具体的な内容

11月19日に行った、掛川市(とうもんの里キッズフェス)では、静岡大学地域創造学環の学生と協働し、どんぐりや廃材などを利用した楽器作りや竹馬、輪投げなどの遊びの場を企画しました。

子どもたちが廃材を使って製作したマラカスで演奏したり、園内で拾得した枝や竹をバチに見立て、木製の有音程打楽器を叩いて音を鳴らしたり、自然が作る様々な音色を体感しました。また、平松なをみ先生にご指導いただき、掛川市の祭りをイメージした「う～わのWA」(平松先生作曲)を、私たちが創作したダンスで、子どもたちと一緒に楽しみました。

イベント内で3回行われたステージでは、「う～わのWA」の曲にのって子どもたちが積極的に参加する姿が見られました。

ほかにも池の生き物を探す子どもの姿や、大学生と鬼ごっこをする姿など、自然と触れ合いながら遊びが誕生していく場面が見られ、私たち自身が子どもたちから学ぶことも多くありました。

11月26日には磐田市の今之浦公園でNATURE BINGO大会を行いました。磐田地域づくり協議会「さくら会議」の方々にご協力いただき、公園に植えられているたくさんの種類の桜に触れ合いながらネイチャービンゴを行いました。
ゲーム内容は、私たちが自作したビンゴカードに書かれてあるものを3グループに分かれて公園内を探索しながら集めるというものです。カードには物の名前が書いてあるわけではなく、「ふわふわ」や「お気に入り」、「面白いもの」など抽象的な言葉が書かれており、子どもたちはそれぞれの感性で自然物を集めていました。

ビンゴの探索を行いながら、学生が子どもたちに、道中に植樹されている桜の説明をし、桜に興味を持ってもらうことを意識しました。

また、探索が終わるころには、公園の周辺には説明した桜以外にも種類があること、ゴミが落ちていると桜の元気がなくなることを説明し、ゴミ拾い、ポイ捨てをしないことを呼びかけました。

探索が終了したのち、集めた自然物を説明しながらビンゴを完成させました。また、集めた自然物で作った落ち葉アートでは、落ち葉を使った蝶々、さまざまな植物を使ったモアイの顔など、子どもたちは思い思いに製作を行う姿が見られました。

今回の活動では、春の桜ライトアップの告知も含めており、今之浦公園周辺の活性化を目指した活動を行うことができました。

○期待される効果

子どもたちが、自然の中で遊ぶ楽しさを体験したことで、親子との交流が深まり、地域の魅力を伝えることができました。自然物の大切さを感じ、地域全体で自然を守っていかなければいけないという意識が芽生えたと思います。

北村　倭稀
健康プロデュース学部こども健康学科
SUN&LEAF

連携先　静岡大学地域創造学課
とうもんの里
磐田地域づくり協議会